モ　モ

学　　名	：	*Prunus persica*
生 薬 名	：	桃仁（とうにん）
薬用部位	：	種子（種仁）
薬　　効	：	消炎・鎮痛

桃

「モモ」の名称の由来は諸説あり、実の数が多いという意味で「兆」や「百（もも）」か、熟すと赤くなるので「燃実（もえみ）」の意ともいわれます。モモは生長が早く、実がたくさんなることから、生命力や多産の象徴だったようです。桃＝逃（追い払う）または刀（魔除け）の同音から桃に邪鬼を払う神秘的な力を認め、食べれば万病に効いて長生きできると古くから仙木として尊ばれてきました。「桃李もの言わざれども下自ら蹊を成す」は『史記』にある一文です。桃や李のように何も言わずとも美しい花を咲かせ、美味しい果実を実らせる木には、自然とその下に道ができる。つまり、徳望のある人のもとへは人が自然に集まるということわざです。

モモは花で目を楽しませ、果物で親しまれるだけでなく、古来、薬としてもさまざまな部位が利用されてきました。桃の核を割ると、仁（種子）が出てきます。これを乾燥したものが生薬「桃仁」です。血液循環の滞りを改善する作用があり、婦人科系疾患に用いる漢方処方に繁用されます。

また、モモは民間的にも様々な疾病に用いられてきました。打撲で、腫れて痛みがあるときには、桃仁をすりつぶして患部につけるとよいとされ、白花の蕾は下剤として用いられます。花をすりつぶして、にきびに塗布し、葉をすりつぶした汁ははれものにつけたり、浴剤にすると肌荒れやあせもによいとされます。